

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立青柳中学校

(令和5年2月1日作成)

1 学校教育目標 自ら考え実践する生徒（知） 心豊かで思いやりのある生徒（特） 健康でたくましい生徒（体）	
2 重点目標・努力目標 ○自ら考え実践する生徒を育成する授業改善 ○心豊かで思いやりのある生徒を育成する活動の充実 ○健康でたくましい生徒を育成する生徒指導の推進 ○幼保小中を一貫した教育の研究と実践 ○地域とともにある学校づくり	3 前年度の成果と課題 成果 体育祭、文化祭などの行事を行うことができ、保護者や地域へ向けて本校の教育活動の成果を示すことができた。 課題 不登校生徒解消に向けて、さわやか相談員、SC、SSW、支援室等関係機関とも協力し、教室復帰に向けて様々な方面からアプローチできるようにする。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	○学校としての配置は適材適所でスムーズな学校運営につながっていた。 ●人の入れ替わりを踏まえて、分掌の引継ぎを確実に進行。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○様々な場面で活躍の場があり、スキルアップすることができた。 また、テーマ・時期・方法が現状に沿う、ニーズのあるものを選定する。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○自校で定めたコロナ対策ガイドラインに沿って活動できた。安全点検をしたあとの改善スピードを一層早める。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	○持ち出し簿の活用などを徹底し、大きな事故が発生することなく、安心安全な学校運営をすることができた。生徒氏名のある資料の置忘れなどが無いよう事故防止研修を行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	○行事や学校公開で保護者が生徒の活動を見られる機会が戻ってきた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	C	○子連携教員が小学校と交流をもった。小学校と連携を図ることができている。 ●小学生部活動体験が実施できなかった。安全面の配慮など検討する事が多い。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	○授業時数は十分に確保されていた。履修漏れ等なく、見直しをもって計画した。 ●分掌の数と授業数のバランスがとれる人員確保や配置をすすめる。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用などを充実することができた。 ●アクティブラーニングを成立させるために必要な基礎的・基本的な学習習慣や学力の定着が非常に困難であった。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	○ローテーション道徳を実施することで、教材研究を深めることができた。生徒の興味関心を引くような、さらに工夫された授業ができるとよい。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	○体育祭、合唱コンクール、校外学習など様々な行事を実施することができた。行事について知っている職員が少なくなり、スムーズな引継ぎが課題である。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	○時に地域・保護者の人と協力しながら総合的な学習の時間の指導を行った。課題解決的な学習となるよう、担当を中心に研修を深める。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	○校則の見直しを行うことができた。次年度も共通理解のもと指導する。 ●担当学年外では情報の共有が十分にできず、状況に即した指導ができない場面があった。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	○社会体験事業ができない中で、保護者講演会やキッズニアの校外学習が実施できた。進路指導担当間の情報交換が積極的に行われるように部会の時間を設ける。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	○通常学級の生徒も特別支援学級を利用して、効果的な成果が得られている。 ●個別の支援計画について、学校で生徒の情報について共有を徹底する。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	○図書室は落ちついた雰囲気運営している。ポップなどを作成し環境はよい。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	○様々な場面でICTが活躍し、生徒の技術も向上している。 ●ネット回線の環境が悪く、思うような活用ができない。

①人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○人権作文などを通して、生徒の人権に関する意識は向上した。</p> <p>●人権標語と人権作文以外の人権教育の方法を模索する。</p>
-------	--	---	--

(様式2・中学校用③)

草加市立青柳中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化 ・家庭学習ノートの活用 ・授業規律の徹底 ・思考力、判断力、表現力を育成する言語活動の充実 ・一人一回の研究授業の実施 ・1時間毎の授業改善 	B	<p>○学習計画を入念に立て、テスト勉強に取り組む生徒が多かった。</p> <p>●継続的に家庭学習をしたり、自分が学んだ成果を発揮することができて、達成感を味わったりするような経験をする生徒が少ない。</p>
	生徒による自治的活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 ・活発な部活動 ・道徳教育の推進 ・いじめ撲滅への取組 ・居場所作りの支援 ・研修体制の確立 	A	<p>○生徒主体の行事、委員会運営を意識して行うことができた。ピアサポート活動はぜひこれからも続けたい。</p>

<p>5 総合評価 (学校関係者評価を含む)</p> <p>○新型コロナウイルス対策に細心の注意を払い運営した。健康観察なども毎日欠かさず行い、健康に関して十分に対応した。</p> <p>○除草作業や1学年の保護者講座などを通じて、地域や保護者に開かれた学校作りを維持することができた。</p> <p>○学校教育目標を踏まえて学年目標・学級目標を設定し、知・徳・体の全てにおいて目標を設定することで、生きる力を養おうとする具体的な指針をもつことができた。</p> <p>○主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業を目指し、ICTの活用など充実した授業を行うことができた。</p> <p>○ピアサポート活動をはじめ積極的にいじめ撲滅に向けて、生徒が主体となって取り組んでいた。</p>
<p>6 次年度の改善策</p> <p>●不登校生徒の数を1人でも減らすことを多角的多面的に考えなければいけない。不登校数が増加しているが、劇的な解決策はなく、職員が共通認識のもとに地道に取り組む。</p> <p>●生徒指導場面における指導の基準について、職員間の認識のずれを埋められるように研修を深める。</p> <p>●継続的に家庭学習を行う努力をしたり、自分が学んだ成果を発揮する機会があったり、達成感を味わう経験をする生徒が少ない。家庭学習を習慣化する方策を学校として検討する。</p>